マレーシア AYF(Asian Youth Fellowship) プログラム 見学報告

記録者：大塚武司，中野真規子

1　AYF：Asian Youth Fellowship Program について

「AYF」は東南アジア出身学生に対する日本留学予備教育プログラムであり，日本政府からの委託で，特定非営利活動法人アジア科学教育経済発展機構（Asia SEED）[*1]によって運営されている。マレーシアで 1 年間の予備教育（日本語中心）を行ったあと，学生を日本の大学院に留学させる。学生は東南アジア 11 か国（ASEAN 加盟国＋バングラデシュ）の大学卒業生。日本語教材：「みんなの日本語」「日本語中級 J301/J501」などを使用。

2　見学概要

日時　：2004 年 3 月 24 日（水）9：30〜15：00
場所　：10th Floor Wisma Perdana, Lorong Dungun Kiri, Off Jalan Dungun, Damansara Heights 50490 Kuala Lumpur, MALAYSIA
見学者　：大塚武司，伊藤静，林逸菁，中野真規子

3　授業見学報告

3.1　クラス編成

A クラス（8 名）／ B クラス（9 名）の 2 クラス（原則として同国人学生は同じクラスにはならない。）

3.2　授業内容

3.2.1　2 時間目 10:10〜11:00

■A クラス

[*1] http://www.asiaseed-institute.com/

- 自己紹介。見学者との QA。
- 「みんなの日本語」10 課 問題 5,6（OHP を使用して確認）

■B クラス

- 「みんなの日本語」10 課の練習 C の絵を見て，ペアで対話練習
- プリントを使用してペアで
  A　：～はどこにありますか。
  B　：～は～にあります。（インフォメーションギャップの練習）

3.2.2　3 時間目 11:10～12:00

■A クラス

- 「みんなの日本語」11 課
- 助数詞の導入，練習（実物使用）
- 助数詞を使った QA
- 練習 B（OHP 使用）
- 練習 C － 1　レストランでの注文（OHP）表現練習
  解説書語彙表のメニューを使用し，二人で注文のロールプレイ

■B クラス

- 「みんなの日本語」11 課の単語導入
- 助数詞「～つ」の導入，練習
- 文型練習
  1. みかんが 1 つあります。
  2. __さんの机の上にみかんが 1 つあります。
  3. A：__さんの机の上にみかんがいくつありますか。
     B：1 つあります。
- 助数詞「～本」「～枚」「～台」の導入，練習
- 練習 B，練習 C-1 の練習

3.2.3　4 時間目 13:00～13:50

■A クラス

- 助数詞の復習，フラッシュカード新出語彙確認
- 親族名称　フラッシュカードで語彙確認
- 練習 C － 2 の会話練習　ペアになって発表（自身の家族について）

- 例文読み

■B クラス

- 午前の復習
- 助数詞「～人」の導入，練習
- チェーンドリル
  A：～さんの家族は何人ですか。
  B：私の家族は～人です。
- 練習 C-2 の会話練習
- 練習 B

3.2.4　5 時間目 14：00～14：50

■AB 合同

- 聴解練習「わくわく文法リスニング」

4　見学の感想

クラス 8～9 人で授業が行われるため，打ち解けた雰囲気で，積極的な発言が多く見られた。学生は東南アジアの各国から集められており，今のところ共通言語は英語だという話だが，授業中は英語を使うことはほとんどなく，なんとか日本語だけで意思疎通を図ろうとしていた。

母国の大学で教員をやっていた学生や公務員をしていた学生など，目的意識の高い少数の優秀な学生に対する日本語教育を行なっている現場があるということを知らなかったので，非常に興味深かった。それぞれが 1 年の間に，自分の専門についてのレポートなどを書けるレベルまで指導していくのはやりがいがあると同時に，非常に苦労の多い指導だろうと感じた。

このプログラムでは授業が朝 9 時から午後 4 時まで続くというハードスケジュールだが，学生全員が明るく，授業への参加態度も積極的であることに感心した。学生は日本語学習に高いモチベーションがあると強く感じた。このような学校での密度の濃い集中講義と他国の学生との共同生活を通して，学生が一年だけで大学院へ進学する日本語能力を身につけることが可能になるのだと感じた。

学生の目的意識の高さと，先生方の労を惜しまない熱心な指導に驚いた。クラスの雰囲気も明るくお互いへの配慮が見られ，生活の中での交流が深まり，コミュニティの共通言語として日本語を上達させていくという理想的な構造を垣間見たような気がした。

5　謝辞

非常に多忙なスケジュールの中，6 期生 4 名の訪問を承諾してくださった AYF の方々，学生の一人一人に，そしてすべてをコーディネートしてくださり，お話を聞かせてくださった宮崎研究室の大先輩である飯塚尚子先生，細川研究室出身の水戸淳子先生に心から感謝を述べたい。